

あいち病害虫情報 最新情報

令和 7 年 1 1 月 1 7 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

気温は平年並の見込み

名古屋地方気象台11月13日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温はほぼ平年並、降水量は少ない、日照時間は多い見込みです。

チョウ目害虫に注意

フェロモントラップにおけるオオタバコガ及びシロイチモジヨトウの直近1か月の誘殺数は、平年に比べてやや多い状況です。ハスモンヨトウについては、一部地点のフェロモントラップで誘殺数がやや多い状況です。ハクサイほ場に設置したフェロモントラップにおける、コナガの直近1か月の誘殺数は、平年に比べてやや多い状況です。

これらチョウ目害虫は薬剤感受性が低下しやすいため、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。また、周辺ほ場への発生源とならないよう、収穫終了後は残さを速やかにすき込みましょう。施設への飛び込みにも注意しましょう。

キャベツ、ブロッコリーの黒すす病

キャベツ、ブロッコリーの黒すす病が一部地域で発生しています。今後の降雨及び強風により発生が拡大する可能性があり、一度発生が拡大すると防除が困難となります。病徴が進行した株は処分するとともに、薬剤散布に努めましょう。ブロッコリーでは一部系統の殺菌剤に対する感受性が低い菌株を確認していることから、薬剤選択は指導機関に相談しましょう。本病の詳細については、7月2日発表の「令和7年度病害虫発生予察特殊報第3号」及び7月16日発表の「ブロッコリー黒すす病情報第1号」を参照してください。

ハクサイ、キャベツの病害

11月上旬のハクサイほ場での巡回調査において、べと病が一部地域でやや多くなっています。薬剤散布を行いましょ。発病株は次作の伝染源になるので、抜き取り適切に処分しましょ。

菌核病が発生する時期です。下葉に発病が確認されたら薬剤防除を行いましょ。被害株や残渣は地中深くに埋めるなど、適切に処分しましょ。

トマトキバガの発生に注意しましょ

県内各地のフェロモントラップで誘殺が続いており、一部地域ではトマトの被害が確認されています。11月4日発表の「トマトキバガ情報第2号（トマト）」を参考に、見つけ次第捕殺と薬剤散布を行うとともに、被害葉などは適切に処分しましょ。ほ場で被害を初確認した場合は、病害虫防除室またはお近くの農業改良普及課へお知らせください。

トマト黄化葉巻病及び黄化病、キュウリ退緑黄化病及び黄化えそ病

10月下旬の巡回調査におけるコナジラミ類の発生量は、施設トマトほ場で平年並ですが、施設キュウリほ場で多くなっています。タバココナジラミはTYLCV（トマト黄化葉巻病）及びCCYV（キュウリ退緑黄化病）を媒介し、コナジラミ類はTOCV（トマト黄化病）を媒介します。同一系統薬剤の連用を避けて、薬剤防除を行いましょ。10月1日発表の「コナジラミ類情報第2号（トマト）」も参考にしてください。

ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病(MYSV)を媒介します。10月下旬の

キュウリほ場の巡回調査において、ミナミキイロアザミウマの発生量は平年並であり、黄化えそ病の発生株率は平年並の状況ですが、発生が確認されたら速やかに防除しましょう。

果菜類の病害

10月下旬のナスほ場での巡回調査において、すす斑病の発生葉率がやや多くなっています。ナス灰色かび病やすす斑病、トマトすすかび病は、施設を密閉して湿度が高まると発生が多くなります。積極的に換気や送風を行い、多湿にならないようにしましょう。また、発病部位は速やかに取り除き、適切に処分しましょう。トマトでは、草勢が衰えると葉かび病の発生が助長されます。生育に応じた肥培管理に努めましょう。

クビアカツヤカミキリの発生地域が拡大しています

クビアカツヤカミキリの発生地域が拡大しています。尾張地域だけでなく、西三河地域でも確認されました。厳寒期の幼虫は活動しませんが、フラスの出たあとがないか確認しましょう。クビアカツヤカミキリが疑われる被害を確認したら、お近くの農業改良普及課もしくは病虫害防除室に連絡をお願いします。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病虫害情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病虫害防除室 TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820
